

おわりに

豊富な資源と可能性に期待大



森山 沾一 会長（福岡県立大学教授）

福智町は、合併後過大になっている予算や、仕事、公共施設数、職員数などを集中して適正規模に近づける努力をする必要があると、この大綱で述べてきました。また、新しい住民サービスの担い手として想定される地域行政区や町民団体、自治会、NPOなどの活動や組織化を支援し、協働のまちづくりを推進する必要があると示してきました。短い期間でこの改革を成功させるには、何と言っても町長をはじめとする町幹部を中心とした強力なリーダーシップと実行力が問われます。しかも、それは具体的かつ、全職員が一丸となって取組まれるものでなければなりません。

福智町は世界一の健康長寿・皆川ヨ子さんが住むだけでなく、400年の伝統を持つ上野焼、温泉、名所、豊かな農産物・工芸品などの特産品があります。このように豊富な地域資源とポテンシャル（実現可能性）を持つ町なのです。昨年度まで市町村合併という大改革を行ってききましたが、さらに新町では行財政改革

を推し進め、新しい未来豊かな福智町を実現する行政を町民と共につくり上げていただきたいと思います。

そこで、今回の答申の特徴は、次の4点に要約することができます。

第1に、行財政のピンチをチャンスにするための「発想の転換の視点」です。可能性を数多く持つ福智町が、さらに豊かな町となるために「スクラップ・アンド・ビルド」をする創造的視点です。

第2に、そのために町民、行政、議会、企業などとの協働（パートナーシップ）を提言していることです。知識のある人は知恵を出し、身体の強い人は汗をかき、それぞれの立場から新しい町をつくり上げていく必要があります。

第3に、行政職員の意識改革、行動改革に向けた組織改革と研修システムの充実を重視したことです。町民と町職員との協働により、福智町はさらに良い町になっていくことでしょう。

第4に、提言のひとつに「公設民営事業」を提言していることです。指定管理者制度を含めて職員の派遣事業も視野に入れた町の活性化を提言しています。

最後に、行政内部に設立された「行財政改革推進本部」で、これらの趣旨を活かした具体的な行動計画が策定され、早急を実施されることをここで強く期待いたします。

20回におよぶ会議で議論を深め答申した福智町行財政改革推進委員会



答申を受けて

皆

さんすでにご存じのとおり、いま福智町の財政は硬直化し、極めて厳しい状況にあります。このままの状況を放置すれば、町はいずれ立ち行かなくなります。そのような危機的状況の中、今回の行財政改革大綱答申が示されました。

私共はこの答申をふまえ、見直すべきものは見直し、できることから積極的に改善をして、行政の責務を果たさなければなりません。具体的には、昨年末に立ち上げた行財政改革推進本部のもと、公共施設の統廃合や自主財源の確保など、重点項目ごとのプロジェクト委員会を直ちに組織して、町の状況に見合った改革の手法を明らかにしていきたいと思えます。

私は財政の数字だけを改善することが行財政改革ではないと考えています。一時的な好転では「繰り返し」を招きます。この改革の柱は意識改革であり、その上に健全な財政基盤が創られてこそ「真の改革が成った」と言えます。合併前に比べ職員の負担は少なからず増えています。この改革の歩みを止めること

は、もはや許されません。福智町は過去に財政再建を果たした経験もノウハウもあり、豊かな地域資源や町発展の可能性も大いに秘めています。職員の自発的な意識の高まりは、必ずや住民の皆さんに伝わり、町を挙げての改革が成し遂げられるものと信じています。

私はこの改革に職員一丸となって臨み、町の存続と未来をかけて改革を推進する所存です。福智町の礎はいま創らなければなりません。住民の皆様には、公共施設の統廃合をはじめ、ご理解をいただかなければならない課題が多々あります。どうか、町の厳しい現状を認識していただき、改革が目指す方向に、お力添えを賜りたいと願っています。



浦田 弘二 町長

町の未来と存続をかけて



単なる計画書で終わらせないために。

福智町行財政改革大綱の実施計画は、福智町建設計画および総合計画との整合性を図り、改革の期間中は行財政改革の目標達成を最優先することとします。そして、行政内部の「行財政改革推進本部」で具体的な達成目標を作成し、実現していただきます。

目標達成、町民への情報公開などの具体的事例としては、糸島郡二丈町が参考になると思われます。この行財政改革大綱の計画年度・改革時期は、平成19年度から23年度まで

での5年間とし、大綱の下にある実施計画は実施事項の達成状況の確認を毎年行い、その結果を広報紙やホームページを使って公表し、広く町民から改革に対する意見を聞く必要があります。大綱が単なる「計画書」に終わり、実践されないことが多々あります。改革を確実なものにするため、最終答申後も外部委員を入れた行財政改革評価委員会などの会議を設置し、毎年度その改革の成果を評価して、町民や議会に公表されることを提言します。

福智町行財政改革推進委員会	
会長	森山 沾一 (県大)
副会長	荒巻 久美子 (金田)
副会長	中原 和義 (上野)
委員	青野 義信 (神崎)
委員	池長 昇 (神崎)
委員	太田 淳三 (上野)
委員	須藤 優子 (金田)
委員	立花 義廣 (赤池)
委員	長谷川 浩 (市場)
委員	林 桂太郎 (神崎)
委員	原田 幸美 (弁城)
委員	久富 幹枝 (弁城)
委員	本田 美津江 (伊方)
委員	松尾 英俊 (弁城)
委員	安武 憲明 (上野)
委員	山尾 勝子 (上野)
委員	渡辺 巧 (神崎)
50音順・敬称略	